



立命館大学スポーツ健康科学会

2024 年度 総会 議案

■日時： 2024 年 6 月 26 日（水） 12：15～12：50

■会場： R103

■議案

1. 開会
2. 学会長挨拶
3. 議長の選出
4. 【第1号議案】役員の選出1
5. 【第2号議案】2023 年度事業報告ならびに 2023 年度決算報告について2
6. 【第3号議案】2024 年度事業計画ならびに 2024 年度予算案について5
7. スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰式7
8. 閉会

以上

第1号議案

役員の選出について(案)

立命館大学スポーツ健康科学会会則に基づき、以下の役員を選出する。

	教員会員	院生会員	学生会員
会長	長積 仁		
副会長	塩澤 成弘		
常任委員	長野 明紀	小林 美優(M1) 水野 凜(M1) 小林 夢芽華(M1)	上崎 天莉(2 回生)
幹事	篠原 靖司		
監査委員	真田 樹義	橋本 海斗(M1)	

以上

第2号議案

2023 年度事業報告

- (1) 多様な学びへの補助に関して、学会発表やインターンシップなど学会の知の向上に関わる参加費補助、並びに英語力向上(GAT プログラム)の為、Step-up コース:TOEFL 関連講座の受講料・受験料の補助を行いました。
 - ・GAT プログラム Step-up コース:TOEFL 関連講座 受講料補助・受験料補助(年 2 回)
補助申請学生数:2 名
 - ・国内外 インターンシップへの参加補助(年 2 回)
海外(GAT プログラム):ハワイ 17 名、ベトナム 6 名
- (2) 大学院生・学部生の学会等への参加費・交通費等補助(随時)
 - ・2023年度学会補助申請学生数:33名
うち海外学会参加者15名／国内学会17名・1グループ
 - ・主な参加学会
ACSM's 70th Annual Meeting
The 28th Annual Congress of the European College of Sports Science
第36回日本トレーニング科学会大会／第34回日本臨床スポーツ医学会学術大会 など
- (3) 学会誌「立命館スポーツ健康科学」第14巻を発刊しました。新任教員特集、学外研究を行った教員の活動報告、退職される教授陣からのメッセージをはじめ、スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程の修士論文の概要、博士課程後期課程の博士論文要旨および審査報告書等も掲載し、スポーツ健康科学部・研究科の年間の1年をまとめました。同誌は、学位授与式に卒業・修了生へ配布するとともにmanaba+Rでも公開しています。
- (4) 卒業論文優秀者21名に対してメダル、及び図書カードを贈呈しました。
- (5) 「スポーツ健康科学」における教育、研究活動を発展させ、この分野で活躍する人財育成の支援を目的として第6回藍星賞の候補者募集を行い、4名の受賞者を発表・表彰しました。
- (6) 2023年度は、スポーツ健康科学部の11期生が卒業を迎え、博士課程前期課程13期生、ならびに同後期課程10期生が修了しました。卒業・修了生の門出を祝い、学位授与式が開催された3月22日に、びわ湖大津プリンスホテルにて、学生委員会および院生委員会が企画した「卒業・修了記念パーティー」を学会主催で開催しました。

以上

第2号議案

2023年度決算報告(2023.4.1～2024.3.31)

1. 収入の部

予算			決算		
会費収入	教員会員	432,000	会費収入	教員会員	396,000
	大学院生会員	912,000		大学院生会員	8,168,000
	学部生会員	8,112,000		学部生会員	
前年度繰越金		11,662,494	前年度繰越金		18,732,730
卒業・修了記念P 学生自己負担		300,000	卒業・修了記念P 学生自己負担		0
雑収入	預金利息	400	雑収入	預金利息	439
合計		21,418,894	合計		27,297,169

2. 支出の部

予算			決算	
共通企画		2,180,000	共通企画	1,906,769
			講演会	0
			学会誌	1,357,065
			卒業・修了記念パーティー補助	491,260
			藍星賞盾	46,860
大学院生企画		250,000	大学院生企画	409,500
			学会参加費補助	409,500
			その他	0
学生企画		1,030,000	学生企画	886,833
			学会参加費補助	608,292
			学習・交流企画(優秀卒論表彰)	278,541
			その他	0
その他		1,100,000	その他	1,114,335
			学会業務に関わる人件費	918,717
			通信費、予備費など	195,618
次年度繰越金		16,858,894	次年度繰越金	22,979,732
合計		21,418,894	合計	27,297,169

3. 定期預金

積立年度	金額	口数	保有金額
2014	2,075,000	1	17,575,000
2015	1,500,000	1	
2016	3,000,000	1	
2017	5,000,000	1	
2018	3,000,000	1	
2019	3,000,000	1	

立命館大学スポーツ健康科学会 決算監査報告書

記

2023 年度決算報告書について、帳簿、預金通帳、証憑等を照合した結果、適正に執行・管理
されていることを認めます。

2024 年 6 月 5 日

監査委員 スポーツ健康科学部

教授

真田 柳義 

大学院スポーツ健康科学研究科

博士課程前期課程

2 回生

松堂 光 

スポーツ健康科学部

4 回生

岡 ひなの 

以 上

第3号議案

2024 年度事業計画について(案)

- (1) これまでと同様に、スポーツ健康科学部の人材育成目的を達成するため、学生の教育・研究活動を支援します。特に、大学院生や学部生が国内外の学会に参加するための旅費等を支援し、学生の研究力の向上、研究成果の発信機会を支援します。あわせて、GATプログラム生の英語力向上のための TOEFL 関連講座の受講料・受験料補助や、海外インターンシップに参加する学生への参加費用の補助等を行い、国際的な場での活躍を目指す学生を支援します。
- (2) BKC30 周年企画と共同した学術講演会や、学生会員が企画する講演会等の活動・イベントを実施します。
- (3) 学会誌「立命館スポーツ健康科学」第 15 巻を発行します。
- (4) 卒業論文優秀者に対してメダル・及び図書カードの贈呈をします。
- (5) 第 7 回藍星賞表彰制度について、2024 年 1 月に募集し 4 件の応募がありました。選考の結果 4 名の受賞者が決定し 2024 年度本総会にて受賞者を発表、受賞記念として盾を贈呈します。また第 8 回藍星賞の募集を 2025 年 1 月に行います。
- (6) スポーツ健康科学部第 11 期生の卒業ならびに博士課程前期課程 14 期生、同後期課程 11 期生の修了に向けて「卒業・修了記念パーティー」を企画・実施します。
- (7) 2025 年度にスポーツ健康科学部設立 15 周年と学園創立 125 周年を記念した企画の実施に向けて、計画・準備を進めます。

これからも引き続き、学会員の皆様(学生、大学院生、教員)の要望を踏まえた学会活動を展開していきたいと考えております。建設的なご意見やアイデアなどにつきましては、もよりの常任委員、もしくは事務局であるスポーツ健康科学部事務室までお寄せ下さい。

以上

第3号議案

2024年度予算(案)(2024.4.1～2025.3.31)

1. 収入の部

予算			事業計画、積算根拠
会費収入	教員会員	420,000	12,000円×35名=420,000円
	大学院生会員	848,000	8,000円×(M67名+D47名)=912,000円
	学部生会員	8,264,000	8,000円×1033名=8,264,000円
卒業・修了パーティー学生自己負担		372,000	4回生 248名×1,500円
預金利息		400	
合計		9,904,400	

2. 支出の部

予算		事業計画、積算根拠
共通企画	3,850,000	講演会、セミナー企画 300,000円 学会誌発行(15巻) 1,500,000円 2024年度卒業・修了記念パーティー 2,000,000円 藍星賞記念品 50,000円
大学院生企画	750,000	学会参加費補助 700,000円 その他 50,000円
学生企画	1,300,000	学会参加費補助 600,000円 インターンシップ 参加費補助 300,000円 GAT Step-Up Program 補助 100,000円 卒業論文優秀者の表彰 300,000円
BKC30周年記念事業	500,000	企画実施
スポーツ健康学部創立 15周年記念事業	200,000	2025年度の実施に向けた準備
積立金	0	定期預金へ
その他	1,000,000	学会業務に関わる人件費
	10,000	通信費など
合計	7,610,000	
次年度繰越金	2,294,400	(収入)-(予算)

第4号議案

スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰について

藍星賞とは、人材育成、研究成果発信の好循環をより促進することを願い、本学会として「スポーツ健康科学」分野において、教育ならびに研究において顕著な業績・功績をあげた若手を中心とした教職員・学生を顕彰する表彰制度である。

2023 年度については、下記の4名の方々が各部門の受賞者に決定したため、表彰式を執り行う。

記

【2023 年度藍星賞受賞者】

部門	受賞者
1. 研究部門	天笠 志保
2. 教育部門	杉山 敬
3. 国際部門	寺田 昌史
4. 社会連携部門	奥松 功基

1. 天笠 志保 氏

天笠志保氏は、スポーツ健康科学部の二期生として優秀な成績で卒業した後、東京医科大学大学院医学研究科で 2020 年に博士号を取得し、現在、帝京大学大学院公衆衛生学研究科講師を務めている。天笠氏は、公衆衛生分野を専門とし、これまでに国際誌・国内誌を含め 100 編以上の論文を執筆し、口頭発表も 100 回以上行っている。また学会の発表優秀賞も学部時代から受賞し、これまでに優秀賞を 12 回受賞している。これまでに数多くの学会や国際誌の編集委員を務めるなど、若くして非常に顕著な研究業績を収めていることから、藍星賞の研究部門の候補者として推薦致します。（推薦者：祐伯 敦史 教授）

2. 杉山 敬 氏

この度、教育部門において、推薦させていただく立命館大学総合科学技術研究機構助教の杉山敬氏は、学校法人立命館がスポーツ庁より受託している「女性アスリート育成・支援プロジェクト」研究（令和 4～5 年度）のうち、「女性アスリートの育成パスウェイおよび各種競技特性を踏まえ、健康課題に対応したコンディショニングや指導マニュアルの策定・実施」ならびに「女性アスリートのための次世代型の課題マニュアルおよび手順書の実装—アスリート育成パスウェイを考慮した学びシステムの構築と併せて—」において、事業推進の中心的な役割を果たされました。

とりわけ、上記研究課題を推進する上で不可欠であった、滋賀県、草津市、ならびに京都府教育委員会の中学校及び高等学校との連携を進め、各学校に出向いてのジュニア女性アスリートを対象とした計測、フィードバックを丁寧に進められました。また、研究成果についてのセミナー、シンポジウム企画、運営においても尽力され、現場の生徒のみなさん、指導者の方々からも信頼と感謝を得ておられます。加えて、この間のオンライン・シンポジウムの企画、運営などにより、全国にもこれまでの研究成果を発信し、対象校の女性アスリートが

自らの健康意識をたかめ、怪我を予防し、パフォーマンスを高めることに貢献しております。さらに、生徒のみなさんを実際にサポートする役割を果たした、大学院生・学部学生への指導についても、基礎的知識の確認と指導法の習得についても丁寧に対応され、当該学生の成長に大きく貢献をされました。

これらの点より、杉山敬氏を今年度藍星賞の教育部門における受賞者に相応しいと考えるため、推薦いたします。（推薦者：上田 憲嗣 教授）

3. 寺田 昌史 氏

寺田昌史氏は、立命館大学(以下、本学と称す)スポーツ健康科学部・助教として着任し、その後、講師として日本のみならず海外の大学をはじめとする様々な研究機関に所属する教育者・研究者・現場実践者・医療従事者と国際的なネットワークを形成し、国際交流会の開催や国際共同研究の実施等を介して教育と研究の両側面から積極的な活動を行ってきた。

寺田氏は、本学スポーツ健康科学部に着任してから現在に至るまで一貫し、グローバル・アスレティックトレーニング(GAT)プログラムを主導的に管理・運営する立場として携わり、プログラム受講生の確かな専門的知識や現場実践的能力の獲得を目指して精力的に学びの充実に貢献してきた。とりわけ、自身が有する国際的なネットワークを強みとして、GAT プログラムの最大の特長であるアスレティックトレーニング教育認定委員会に認可されたアスレティックトレーニング教育プログラムを保有する米国の大学院との提携において、2018 年に Spalding University、続いて 2021 年に The University of North Carolina at Greensboro の締結に多大な貢献をした。さらに、本学と Purdue University および San Jose State University とのグローバル教育や研究活動の連携を推進することを目的とし、教員や学生、文化活動等の様々な交流を積極的に図るための包括協定の締結にも貢献した。このような一連の教育成果として、昨年度の藍星賞国際部門を受賞した山本和広氏を含む、複数の優秀な GAT プログラムの卒業生を輩出し、その卒業生の米国アスレティックトレーナー資格の取得に尽力してきた。

寺田氏は、優れた教育者としてだけでなく、研究者としても本学スポーツ健康科学部に着任してから現在に至るまで一貫し、スポーツ健康科学やアスレティックトレーニング学に注力した精力的な研究活動を行い、この間に 48 編の論文を国際学術誌に発表してきた。また、自身が有する国際的なネットワークや主体的な研究テーマの知識・見解を存分に発揮し、スポーツ科学の最高峰の国際学術誌である British Journal of Sports Medicine に 16 カ国の著名なスポーツ健康科学やアスレティックトレーニング学の研究者が共同で発表した『足関節捻挫受傷後のスポーツ競技復帰の判断』に関する論文「Return to sport decisions after an acute lateral ankle sprain injury: introducing the PAASS framework-an international multidisciplinary consensus(Vol.55, 1270-1276)」において、日本人で唯一の共同研究者として大きく貢献した。

寺田氏は、一昨年の 9th International Ankle Symposium(世界各国から約 150 名の教育者・研究者・現場実践者・医療従事者が参加)では大会長および実行委員長として、国内外の研究者と密に連携を図り、日本で初めてとなる当該学会の開催の成功に導いた。また、昨年に日本で開催された XXIX Congress of International Society of Biomechanics では、Ankle Injury Biomechanics Symposium のセッションの座長を務める等し、本邦のみならず世界のスポーツ健康科学やアスレティックトレーニング学の学術的発展ならびにそれを牽引する研究者として活躍している。

以上のことから、寺田昌史氏は、国際的視野に立脚し、確かな教育活動と実践的かつ先駆的な研究活動を展開しているとともに、本学スポーツ健康科学部・研究科への尽力を鑑み、藍星賞(国際部門)を受賞するに相応しい人物として強く推薦する。（推薦者：伊坂 忠夫 教授）

4. 奥松 功基 氏

奥松功基氏は、真田ゼミ2期生で、筑波大学大学院に進学し博士号を取得されました。入学当時から健康運動指導士に興味を持ち、健康トレーナーへの夢を持っていました。現在は、リオールジム 代表取締役として医療施設と連携し、乳がん患者専門の支援サポートを行っています。スポーツ選手等を対象とするのではなく乳がん患者を対象とした、リハビリテーション分野における新しいトレーナーの形を作った功績は非常に大きく、スポーツ健康科学会「藍星賞」に該当すると思います。（推薦者：真田樹義 教授）